チェアウォーカーたちの愛と希望の物語
誰だって愛したい。そして愛されたい。
ナショナル7
Nationale Sept
La Sept ARTE-TÉLÉCIP présente
Un film de
JEAN-PIERRE SINAPI
Image et cadre JEAN-PAUL MEURISSE Son JEAN-MICHEL CHAUVET
Montage CATHERINE SCHWARTZ
NADIA KACI, OLIVIER GOURMET, LIONEL ABELANSKI,
CHANTAL NEUWIRTH, JULIEN BOISSELIER
Distribuée par ZAZIE FILMS, INC.
2000年ベルリン国際映画祭 観客賞／2000年サンセバスチャン国際映画祭 観客賞
2000年ロンドン国際映画祭 国際映画批評家連盟賞·新人監督賞

国道7号線は愛が生まれる幸せの道

ナショナル7
Nationale Sept

キャスト
ジュリ：ナディア・カッチ（「今日から始まる」）
ルネ：オリヴィエ・グルメ（「イゴールの約束」「ロゼッタ」）
ローラン：リオネル・アベランスキ
サンドリーヌ：シャンタル・ヌーヴィルト
精神科医（ジャック）：ジュリアン・ボワッスリエ
フロレル：ナディーヌ・マルコヴィッチ

スタッフ
製作：テレシプ、ジャック・ファンスタン
監督・脚本：ジャン＝ピエール・シナピ
撮影：ジャン＝ポール・ムリス

2000年／フランス映画／90分／カラー
イラストレーション：都築 潤
配給：ザジフィルムズ www.zaziefilms.com

障害者だって生きる権利はある。障害者だってセックスはしたい。そんな当然の要求を無視してきた社会に、鉄槌を加えるような衝撃作が生まれた。フランスの国道7号線に近い身障者施設を舞台に、筋ジストロフィーのため車イス生活を送るルネと、彼の苦しみを解消しようと孤軍奮闘する女性介護人ジュリを描いた「ナショナル7」。これは実際にあった出来事を基にしている。人間らしく生きるとはどういうことなのかを観客自身も問われるこの作品は、2000年ベルリン国際映画祭観客賞を受賞するなど世界各地で絶賛された。

吉武美知子（パリ在住・映画ジャーナリスト）

『ナショナル7』を観て、笑って泣いて感動した。そして感心した。だってこんなキワドイ、一歩間違えばヤバイことになるテーマを見事な映画に仕上げて、観た者に幸福感を与えるまで成功しているのだから…。変に、変な気を使わないところが、この映画の良いところだ。重度の身体障害者の収容施設を舞台にしているのだし、登場人物の大半は身障者となると、健常者は腫れ物に触るように度が過ぎた優しさで接してしまったりするのだが、この映画は、のっけからそういったありがちな空気を一掃する。良い映画が生まれる時は全ての歯車が全開して噛み合う。テーマの展開、脚本の厚み、人物像の面白さ、それを演じる俳優達の好演、等々。『ナショナル7』の出演陣は誰をとっても素晴らしい。

LiLiCo（映画コメンテーター）

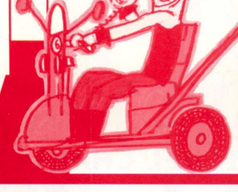
私の生まれ育ったスウェーデンでは障害を持った子供たちと同じ学校に通うなど日常の生活の中に障害者はいつもいました。だから障害者を特別に思ったことなど一度もありません。『ナショナル7』は「みんな一生懸命生きて、自分の意見や欲望も同じように持っている」そんな普通のことを、改めて気付かせてくれる不思議な魅力を持った映画です。

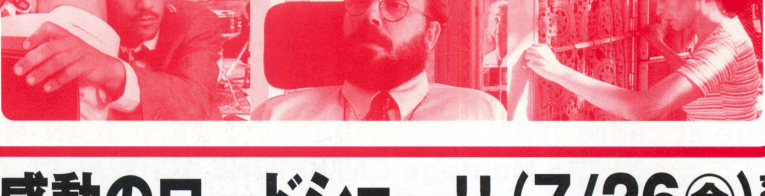
チェアーウォーカーからのメッセージ❶
熊篠慶彦（『熊篠邸の地下室』管理人）

性に関して開放的というイメージのある国、フランス。そのフランスの障害者施設での実話が基になっているという『ナショナル7』。これを観たあとの正直な感想は、フランスですら未だにこの程度、日本も追い着けるかも、というものだった。『ナショナル7』のような話は日本にも存在するが、決して表出してくることはなく、まして映画化されるなんて土壌すらない。しかし福祉先進国の先頭を走る国々はともかく、フランスの背中はすぐそこに見えている。
http://www.netlaputa.ne.jp/~k-nojo/CHIKA/index-3.html

チェアーウォーカーからのメッセージ❷
ホーキング青山（お笑いタレント）

『ナショナル7』を見ると、すごいカルチャーショックを受けるだろう。これまで、とかく聖人君子とされてきた障害者が、実は悪態もつけば、性欲だってあるってことを、この作品を見た人は知ることになる。その意味でこの映画はとても貴重だと思う。でもホントに大事なのは、この映画を"あたりまえのこと"として見られるようになることだと思う。





7月13日(土)より感動のロードショー!!（7/26㊎）まで

●特別前売鑑賞券￥1,500 絶賛発売中！（当日一般￥1,800のところ）
●劇場窓口、阪急・阪神・HEPFIVEの各プレイガイド、チケットぴあにてお求めください。
※劇場窓口にてお求めの方に特製ポストカードをプレゼント（限定／残りわずか）
●本編開映後のご入場はご遠慮ください。

梅田ロフトB1 06(6359)1080
テアトル梅田

月～金のみ	10：40	連日	12：35	※	20：35

※20：35の回は日曜及び7/20(祝)休映いたします